



## エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

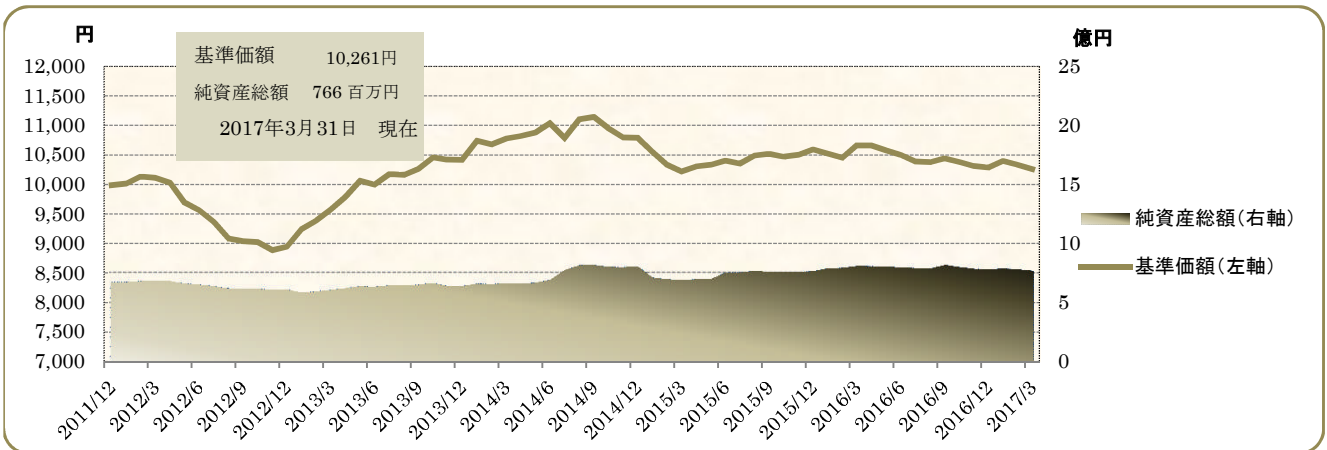
ケイマン諸島籍オープン・エンド契約型外国投資信託(追加型)

作成基準日

2017年3月31日

## 基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

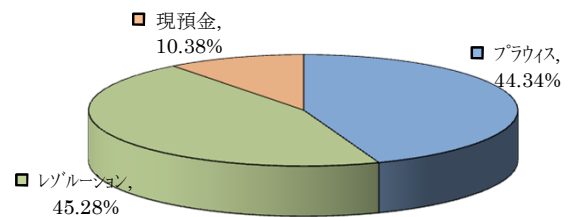
2017	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	1.12%	-0.65%	-0.70%										-0.24%
2016	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	-0.65%	-0.67%	2.02%	-0.04%	-0.75%	-0.70%	-1.11%	-0.13%	0.67%	-0.58%	-0.66%	-0.29%	-2.90%
2015	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	-2.19%	-2.07%	-1.13%	0.85%	0.28%	0.68%	-0.50%	1.31%	0.29%	-0.49%	0.32%	0.87%	-1.85%



## 運用実績

設定日:	2011年12月19日	
決算日:	毎年11月30日	
当初設定元本:	673百万円	
基準日:	2017年3月31日	
基準価額:	10,261円	対前月比 -72円
純資産総額:	766百万円	対前月比 -11.3百万円
設定来高値:	11,146円	
設定来安値:	8,888円	
期間別	3ヶ月	-0.24%
基準価額騰落率	6ヶ月	-1.77%
設定来	ファンド	2.61%
基準価額騰落率	TOPIX	109.05%
	日経平均	125.06%

## 投資対象ファンドへの資産配分 (2017年3月31日現在)



運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

## 投資対象ファンドの基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

2017	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	0.49%	-0.64%	-1.07%										-1.22%
レゾリューション	2.64%	-0.21%	0.10%										2.53%
2016	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	-0.72%	-0.39%	1.59%	0.73%	-1.70%	-2.76%	-0.40%	0.23%	0.59%	0.33%	1.76%	0.04%	-0.80%
ウィズダム	-0.47%	-2.84%	1.22%	0.50%	-1.58%	-1.30%	-0.63%	-1.17%	0.52%	-0.71%	-0.53%	N/A※	-6.83%
レゾリューション	0.02%	1.80%	4.82%	-0.39%	1.60%	2.29%	-1.64%	1.14%	1.99%	-0.53%	-2.34%	-0.01%	8.87%
2015	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	-2.91%	0.43%	-0.74%	1.81%	0.84%	-0.27%	0.22%	0.84%	0.48%	0.83%	0.19%	0.15%	1.82%
ウィズダム	-1.38%	-1.99%	-0.24%	0.27%	0.85%	1.82%	0.96%	1.39%	-0.95%	0.00%	0.92%	0.54%	2.14%
レゾリューション	-1.92%	-4.43%	-1.60%	1.93%	0.57%	2.72%	-1.63%	3.38%	2.61%	-1.26%	1.14%	3.19%	4.44%

※ 上記騰落率は投資対象ファンドの費用控除後の騰落率です。エピック・ヘッジファンド・セレクション1 (以下「HFS」という) にかかるコスト等が含まれないため、投資対象ファンドの騰落率を資産配分結果で加重平均した場合、HFSの基準価額騰落率とは一致いたしません。

※ HFS1へのウィズダムの組み入れは、2016年11月末までです。ウィズダムは2017年1月25日をもって償還しました。



# エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

## 相場動向

3月の株式相場は、日経平均で1.10%下落の18,909.26円、TOPIXで1.48%下落の1,512.60ptとなりました。米早期利上げ観測を背景に上昇した後、FRBが利上げを決定したものの利上げペースが速まるとの見方が後退したことや、米政権の政策運営への不透明感から下落に転じました。

上旬は、急速に強くなった米早期利上げ観測を背景に、円安・ドル高が進行し買いが先行しました。その後は重要イベントを前に方向感のない展開となりました。

中旬は、日米の金融政策決定会合を前に様子見姿勢が続いた後、FRBが利上げを決定したものの、利上げペースが速まる見方が後退したことから、為替相場が円高・ドル安方向に振れたため下落しました。

下旬は、米利上げペースが想定よりも緩やかになるとの見方や、トランプ政権の政策運営への不透明感から、米株安や米長期金利の低下を背景に円高が進み、利益確定売りが優勢となりました。

需給面では、海外投資家が2ヵ月連続で売り越しとなりました。国内の投資主体は、信託銀行が2ヵ月連続の売り越し、個人投資家は2ヵ月連続の買い越し、投資信託は6ヵ月連続の売り越し、事業法人は12ヵ月連続の買い越しとなりました。

セクター別騰落率では、その他製品、石油・石炭製品、精密機器、電気機器、電力・ガスが上位となり、鉄鋼、不動産、海運、銀行、倉庫・運輸関連が下位となりました。

東証一部の売買代金は1日当たり2.17兆円と、活況の目安となる2兆円を5ヵ月連続で上回りました。

新興市場の騰落率は、JASDAQインデックスが0.7%の上昇、東証マザーズ指数は1.1%の上昇となり、いずれもTOPIXをアウトパフォームしました。

ファクター面では、収益力によって銘柄選別されるグロース相場となりました。具体的には、PBRでみた割安銘柄が-5%超アンダーパフォームしたのに対し、予想ROEが高い銘柄は5%超、経常利益成長率の高い銘柄は4%超アウトパフォームしました。

## 組入ファンドの運用状況と今後の市況見通し及び投資戦略

### 【プラウイス】 〈ファンド運用状況〉

3月の運用成績はJPYクラスで-1.07%となりました。3月中旬以降株式市場の調整色が強まる中、ショートの比率が高かった電機・石油セクターの銘柄が相対的に堅調に推移したことがマイナスの要因となりました。

セクター別の損益では、金融、化学セクターでプラスとなり、石油、機械、電機、不動産セクターでマイナスとなりました。

### 【レゾリューション】 〈ファンド運用状況〉

規模別指数などで見ると小型株優位でしたが、スタイルインデックスで見るとむしろ大型株優位でした。車、鉄、銀行が大きく割り付けたことなど、業種要因と思われます。感覚的にも、一部バブル銘柄が活況だったほかは売買も盛り上がり、割高銘柄とアナリストのノンカバー銘柄の上昇が見られました。

ファンドは、内需銘柄のロングを中心に組み入れ、ややグロスエクスポージャーを拡大させました。

半導体や内需グロース株がプラス寄与となり、普通の内需グロース株の下落や個人好みの高バリュエーション銘柄のショートがマイナス寄与となりました。パフォーマンス寄与に特定銘柄への偏りは少なく、全体としてパフォーマンス獲得は限定的でした。

### 〈今後の市況見通し及び投資戦略〉

4月の株式市場はもみ合いの相場展開を想定します。トランプ政権の政策に対する不透明感から、上値の重い展開が続くと思われますが、企業業績の回復期待や日銀のETF買いもあることから下値も限定的と考えます。

今後の運用方針は、個別企業の業績・需給動向や国内外のマクロ動向を勘案し、相対的な割高・割安を適切に判断しながら、マーケットの上下に左右されない安定した収益の獲得を目指します。

### 〈今後の市況見通し及び投資戦略〉

足元、特定銘柄への売買集中も穏やかになりつつありますが、幅広い銘柄に関心が向かう状況には無いと考えます。

ポートフォリオは、引き続き内需グロース銘柄のロングを中心とし、業績モメンタムがピークアウトする銘柄のショートや一部シクリカル銘柄の入替を考えます。

今期の業績がほぼ明らかとなったことから、来期以降の業績確信度や企業側の来期ガイダンスのスタンスに留意しつつ、定性的な評価による銘柄選別を進めます。

ファンドにとってマイナスに動く局面があれば、さらにグロスエクスポージャーを拡大させます。

## 投資信託の主な関係法人

管理会社:	インターナショナル・マネジメント・サービス・リミテッド
信託会社:	G.A.S. (ケイマン)リミテッド
管理事務代行会社:	エスエムティー・ファンド・サービス(アイルランド)リミテッド
保管銀行:	スミトモ・ミツイ・トラスト(ユークイ)リミテッド
投資運用会社:	エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第432号 加入協会:一般社団法人 日本投資顧問業協会
代行協会員・日本における販売会社:	ヘッジファンド証券株式会社 <a href="http://hedgefund-sec.com/">http://hedgefund-sec.com/</a> 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2580号 加入協会:日本証券業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会



# エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

金融商品取引法に基づく表示

## 商号等

エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第432号

## 当社が加入する協会等について

一般社団法人 日本投資顧問業協会 加入 第011-01395号

## ご留意事項

- 当資料は投資信託の運用状況をお知らせするためにエピック・パートナーズ・インベストメンツが作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
- 投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。
- 当資料は特定の有価証券等の取得の申込み、投資顧問契約、投資一任契約の勧誘等を目的としたものではありません。
- 当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
- 当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 投資信託は、株式等を投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。  
したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。
- 運用管理費用、監査費用、その他の諸経費が、投資信託の保有期間に応じてかかりますが、事前にその上限を示すことができません。また、有価証券の売買等に係る手数料、租税等が発生しますが、運用の状況により変動しますので事前にその上限を示すことができません。

**当資料は、投資運用会社であるエピック・パートナーズ・インベストメンツが投資信託の運用状況をお知らせするために作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。**

**投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。**